

◆奨励賞◆

幸せを見つけて

中原 中学校 三年

島 波 雄 真

僕は先日、学校から帰宅したときの出来事が心に残っています。その日は部活で体も心も疲れており、気分も沈んでいました。家に帰ると、台所から味噌汁の香りが漂い、母が夕食の支度をしていました。僕は思わず「疲れた。」

とつぶやきながら椅子に座ると、母は

「おかえり。今日は大根をたくさん煮込んだよ。あなたの好きな味になっているはず」

と笑顔で言いました。

その言葉を聞いた瞬間、僕の心は軽くなりました。大根の煮物は僕の大好物で、母が僕のことを気にかけて作ってくれたのだと気づいたからです。夕食の時間になると父も加わり、食卓はにぎやかになりました。学校での出来事やニュースの話題で盛り上がり、自然と笑顔がこぼれました。料理を食べながら笑い合ううちに、疲れは不思議と消えていき、心まで温かくなっていくのを実感しました。

食事を終えた後、僕は母に

「ありがとう。ご飯を食べたら元気になったよ」

と伝えました。すると母は少し驚いたように笑い、

「ご飯ってそういうものだよ。お腹だけじゃなく心も元気にするんだよ」

と言いました。その言葉を聞き、僕は食事が単なる栄養補給ではなく、家族の心をつなぐ大切な時間なのだと深く感じました。

日常生活は一見単調に思えるかもしれませんが、その中には小さな幸せや支えが数えきれないほどあります。家族が作ってくれる料理や、何気ない会話は、僕の生活を静かに支えてくれます。忙しい日々でも、食卓を囲むひとときが僕に安心と力を与えてくれるのだと改めて気づきました。

この体験から、僕は

「当たり前前に思えるほど大切にしたい」

と強く思うようになりました。特別な旅行や大きな出来事ももちろん大切ですが、家族と過ごす日常のひとときこそ、かけがえのない宝物です。これからも小さな幸せを見つけ、大事にしながら生きていきたいです。